お わ り に

本書（『歴史地理学』第50巻１号）は，歴史地理学会創設50周年記念事業の１つとして平成19年９月８日～10日（但し，10日は巡検）に日本大学経済学部７号館において開催された「文化景観と環境の歴史地理学―歴史地理学の現在と未来」と題した国際会議の記録である。今回開催した国際会議のねらいなどについては石井英也会長が巻頭に述べられているので，この場を借りて今回開催した国際会議開催の提案から実行に至る経緯の概略を記し，貴重な時間を割いて国際会議開催にご尽力いただいた会員諸氏に感謝の意を表したい。

歴史地理学会において国際会議の開催は，創設以来初めての試みであり，歴史地理学会50周年記念事業企画立案特別委員会の答申を受けて始まった。その準備は，2006年１月の実行委員会の立ち上げから始まり，2006年６月にの近江八幡市での第48回大会の際に開催した実行委員会において①３つのセッション（東アジア・東南アジア・欧米）に分け，優先順位を付けて招聘研究者に参加の可否を打診し，決定すること，②各セッションの研究発表者は原則として３名（最大４名，日本人研究者１名を加えることもできる），各セッションの持ち時間はおよそ半日（３時間程度），１発表45分とすること，③「景観・環境の変化」を共通のテーマとし，セッションごとに穏やかなテーマを設定することの基本的事項３点に関する了承がなされた。

その後，近畿大学で開催された実行委員会で，国際会議を開催するための準備を進行させる方策を検討し，2006年12月10日に開催された実行委員会で大会当日及び準備過程での役割分担，大会当日のタイムスケジュール，招聘候補研究者の期限（６月）までに英文による完成した発表原稿の提出を条件に含めた内諾の取り付け，招聘の具体的条件の決定と条件に従った正式な招聘状の作成に関する話し合いがなされた。こうした状況を踏まえて招聘研究者の決定が2007年に持ち越されることとなった。招聘候補研究者から内諾が得られ，全ての招聘研究者へと正式な案内状が送付されたのは，2006年度末になったと報告を受けている。開催日やテーマの設定，会議開催形式および招聘者の人選と会議参加への応諾を得るまでにかなりの時間を要する結果となったが，2007年５月20日に國學院大学において開催された第50回大会開催時に併せて開催された2007（平成19)年度の評議員会・総会において国際会議の日程，各セッションのテーマおよび研究発表者（９名）等具体的内容が提案され，承認されたのである。

こうした国際会議開催へ向けた準備作業の相対的遅れは，６月に設定された発表者の英文による完成した発表原稿の収集情況に波及し，その後の重要な作業である日本語による発表論文集（国際会議当日，参加者へ配布）作成のための翻訳作業の時間的制約となって現れ，関係各位に時間的，労力的に多大な負担をお掛けすることとなった。翻訳作業は，実行委員による奉仕活動によってなされたものであり，委員各位の献身的協力によって支えられ，国際会議が開催できたことを記しておかなくてはならない。

歴史地理学会における初めての試みにもかかわらず，会員諸氏のご協力を得て，100人を超す参加者の下で開催された国際会議は，巡検を含めて成功裏に実施できたと考えたい。しかし，その成果をまとめて公表すべき「特集号」の発行が遅延したことは，われわれが不慣れであったうえ，準備段階において時間的制約から編集方針の細部にまで及ぶ議論に十分な時間が割けなかったからである。

そのため，「詰め」の部分が不十分で，編集方針の統一に思わぬほどに時間を要したことに起因すると思われる。校務多端の中，よりよい記念事業を実行するために各委員の献身的ご協力をいただきながらこうした遅延に至ったことは極めて遺憾なことである。大方のご寛容を得られれば幸甚である。

歴史地理学会創設50周年記念事業の一つである国際会議開催に係わられた全ての会員諸氏にこの場を借りて心から感謝し，お礼を申し上げる次第である。

2008年１月

松 村　祝 男